

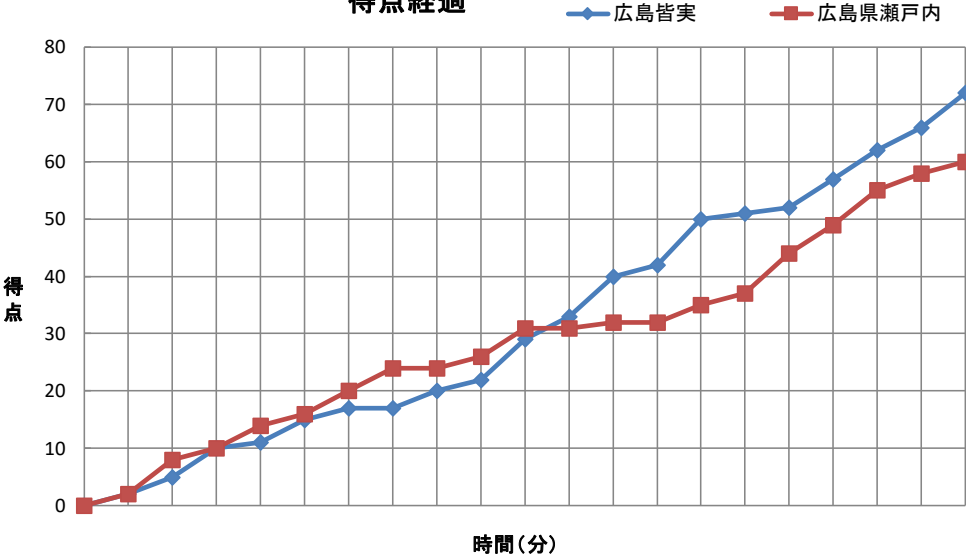
モルテンカップ 令和7年度広島県高等学校秋季バスケットボール大会兼
第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会 広島県大会



個人トータル表

男 子							令和7年11月2日 13:00 開始						
決勝							広島経済大学 石田記念体育館 0						
◎ 広島皆実 72 (広島県) 15 1st 16 14 2nd 15 22 3rd 6 21 4th 23 60 広島県瀬戸内 (広島県)													
番号	氏 名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏 名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	磯本 真之介	9	3	0	0	2	4	若 林 快 晟	2	0	1	0	2
* 5	平 田 成	11	1	3	2	0	* 5	伊 藤 雄 飛	2	0	1	0	3
6	竹 本 光 流	0	0	0	0	0	6	前 田 剛 悠 貴	-	-	-	-	-
7	川 崎 拓 海	1	0	0	1	1	* 7	川 越 遼 大	0	0	0	0	0
* 8	村 上 礼	25	2	8	3	3	8	早 田 勇 亀	2	0	0	2	1
9	小 笠 原 諄	-	-	-	-	-	* 9	随 行 太 一	11	0	5	1	3
10	渡 邊 龍	-	-	-	-	-	10	平 野 晃 成	-	-	-	-	-
11	松 井 海 偉 渡	5	0	2	1	4	* 11	三 次 漣 侍	8	1	2	1	2
12	松 本 蓮 太 郎	0	0	0	0	0	12	村 田 流 星	17	3	4	0	0
13	立 花 怜 央	-	-	-	-	-	13	松 原 大 海	-	-	-	-	-
* 14	藤 原 佑 貴	12	3	1	1	0	* 14	藤 川 大 夢	16	3	2	3	5
15	渡 邊 嘉 人	-	-	-	-	-	15	金 本 尚 大	2	0	1	0	1
* 16	藤 本 晴 己	9	0	2	5	2	16	秋 永 悠 真	-	-	-	-	-
17	小 林 愛 翔	-	-	-	-	-	17	竹 川 蓮 恩	-	-	-	-	-
18	橋 本 青 空	-	-	-	-	-	18	玉 川 蛍 翔	-	-	-	-	-
コ-チ	横 田 学					0	コ-チ	川 西 英 昭					0
Aコ-チ	佐々井雄大						Aコ-チ	山崎翔太郎					
合 計		72	9	16	13	12	合 計		60	7	16	7	17
主審: 熊本裕一朗													
副審: 北川祐大													
副審: 山本海土													

得点経過



CTO	1・2P		3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	16:51	19:53	33:36	:	:	:	:	:	:
TeamB	12:17	:	23:46	36:15	39:10	:	:	:	:

〔戦評〕 広島皆実VS瀬戸内
スタート 広島皆実#4 #5 #8 #14 #16 瀬戸内#7 #11 #14 #22 #37
第1Q 序盤は両者ともマンツーマンで開始し、エントリースセットから皆実#8のゴール下で率先良く先制する。瀬戸内は#37の連続3ポイントで点数を重ね、皆実は#16のリバウンドやセットオフenseからの得点で対抗する。両者高いリバウンドのインテンシティを見せ、拮抗した展開に。その後も両者譲らず一進一退の攻防が続き、点差が離れない。16-15瀬戸内の1点リードで終える。
第2Q 互いに譲らず拮抗した展開が続き、なかなか点数が入らない。残り7:43、20-17瀬戸内3点リードの展開で瀬戸内が1回目のタイムアウト。タイムアウト後、瀬戸内は#22のペリメーター、トラップから#14の連攻で得点を重ねる。皆実は#4の3ポイントや#7の豪快なリバウンドで流れを渡さない。残り3:09、26-20瀬戸内6点リードの展開で皆実がタイムアウト。タイムアウト明け、瀬戸内はスペインピックやSTSで崩し得点を狙うも、なかなか得点できない。一方、皆実は#8のペリメーター、#5の3ポイントで点差を詰めにかかる。その後互いに得点を重ね、残り7.2秒、31-29瀬戸内2点リードで皆実のタイムアウト。#8の3ポイントを狙うも、ゴールに弾かれる。31-29瀬戸内2点リードで前半を折り返した。
第3Q 開始早々皆実#5のドライブからの得点。続いて#8のペリメーター、ディフェンスから瀬戸内のターンオーバーを誘い、皆実が逆転に成功する。さらに皆実#16がスティールからアンスポーツマンライクファウルを誘い、確実にフリースローを決める。ルーズボール、リバウンドのギアを後半からさらに一段上げた皆実がリードを広げる。残り6:14、40-32皆実8点リードの場面で瀬戸内は後半1回目のタイムアウト。タイムアウト明けからも皆実のインテンシティは落ちず、瀬戸内の得点が停滞する。一方、皆実は#14、#8の3ポイントで突き放しにかかる。瀬戸内は皆実のディフェンスに苦しみながらも、#33の3ポイントなどでなんとか食らい付く。51-37皆実14点リードで終える。
第4Q 瀬戸内はエントリーブレイで#14のペリメーター、次いで#33のペリメーターで得点を連続得点に成功。ディフェンスは1-2-2→3-2のゾーンプレスで運動量を出し、巻き返しを図る。瀬戸内は#33の連続得点で点差を詰めにかかるが、皆実も粘り強いリバウンドで耐える。残り6:24、55-49皆実6点リードで皆実がタイムアウト。タイムアウト明け早々皆実#5、瀬戸内#33と互いに得点をとる。その後も互いに得点を重ね、均衡した展開が続く。ファストブレイクから皆実#5がリバウンドシュートを決めたところで、残り3:45、64-55皆実9点リードで瀬戸内タイムアウト。タイムアウト明けも瀬戸内#14、皆実#8と互いに点を重ねる。瀬戸内はゾーンを継続する。残り1:19、瀬戸内#37がリバウンドの攻防でファウルアウト。皆実は当たっている瀬戸内#33にフェイスガードを当て、締め出しを図る。残り50.5秒、66-60皆実6点リードで瀬戸内は最後のタイムアウトを使い切る。タイムアウト明けのブレイ、リバウンドで繋いだ皆実は#14が3ポイントを決める。72-60で広島皆実が2年ぶり18回目の優勝を飾った。
終始互いの良さをさせず、ルーズボール、リバウンドの激しさが目立つ締まった好ゲームであった。その中で後半さらにギアを上げ、突き放した皆実の力強さは見事であった。対する瀬戸内も苦しい時間帯に高い得点力を見せつけ、素晴らしい粘りを見せてくれた。勝利した広島皆実には、広島県代表としてウィンターカップの舞台でも粘り強い戦いを繰り広げての躍進を期待したい。